

再 評 価 書

箇所名	宇治山田港海岸 二見地区		事業名	海岸侵食対策事業		課名	港湾・海岸課																																									
事業概要	工期 (下段前回)	H12年～H34年	全体事業費 (下段前回)	5,694百万円 (負担率: 国 1/2 : 県 1/2 : 他 0)																																												
		H12年～H34年		5,694百万円 (負担率: 国 1/2 : 県 1/2 : 他 0)																																												
事業目的及び内容																																																
<p>宇治山田港海岸は、伊勢湾西岸の南部に位置し、北西から南東方向に直線的に延びる延長約3.5kmの海岸です。海岸背後には人家が密集しており、夫婦岩参道(旅館街)の観光客も含め人口が集中する地域となっています。当地区の海岸堤防は、伊勢湾台風による被災を契機に昭和36年までに築造されましたが、築後50年以上が経過していることから施設本体の老朽化が進んでおり、また、近年は河川からの土砂の供給が減少していることなどから砂浜が侵食を受け汀線は大きく後退してきています。このようなことから、台風などの高波時には防護効果の低下により波が堤防を越える越波被害が発生するなど、背後の旅館街及び人家の安全が危惧される状況となっています。</p> <p>本事業では「海岸侵食の進行を防止し海浜の安定を図るとともに、波浪や高潮などによる浸水を未然に防ぎ、背後地の生命・財産を守る」ことを目的に、平成12年度から事業に着手し、平成34年度の完成を目指し事業を進めています。</p> <p>○事業の実施計画は下記の通りです。</p> <p>全体計画延長L=3,518m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二見工区 L= 758m (堤防改良758m、突堤工5基、養浜工12万m³) ・今一色工区 L=2,760m (堤防改良2,760m) 																																																
事業主体の再評価結果																																																
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>平成12年度に事業が採択され、平成21年に再評価を実施した後、5年が経過し、なお継続中の事業であることから三重県公共事業再評価実施要綱第2条(3)の規定に基づき、再評価を行いました。</p>																																																
<p>2 事業進捗状況と今後の見込み</p> <p>2-1 事業の進捗状況 (事業採択: 平成12年、工事着手: 平成12年、事業進捗状況は下表に示す)</p> <p>全体事業費は56億9千4百万円に対して、21億6千万円が完了しており、進捗率は37.9%となっています。</p> <p style="text-align: right;">(単位: 千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工種名</th> <th colspan="2">全体計画</th> <th colspan="2">平成26年度まで見込み</th> <th colspan="2">残事業</th> </tr> <tr> <th>数量</th> <th>事業費</th> <th>数量</th> <th>事業費</th> <th>数量</th> <th>事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堤防改良</td> <td>3,518m</td> <td>3,730,000</td> <td>700m</td> <td>948,400</td> <td>2,818m</td> <td>2,781,600</td> </tr> <tr> <td>突堤工</td> <td>5基</td> <td>740,000</td> <td>4.5基</td> <td>711,600</td> <td>0.5基</td> <td>28,400</td> </tr> <tr> <td>養浜工</td> <td>12.2万m³</td> <td>1,224,000</td> <td>5.1万m³</td> <td>499,500</td> <td>7.1万m³</td> <td>724,500</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>5,694,000</td> <td></td> <td>2,159,500</td> <td></td> <td>3,534,500</td> </tr> </tbody> </table> <p>二見工区では突堤および養浜の整備が進み、1、2、3号突堤および1～2、2～3号突堤間の養浜が完成し、一定の防護機能を発揮しはじめており、高波浪来襲時には背後への越波や飛沫をしっかりと低減させています。</p>								工種名	全体計画		平成26年度まで見込み		残事業		数量	事業費	数量	事業費	数量	事業費	堤防改良	3,518m	3,730,000	700m	948,400	2,818m	2,781,600	突堤工	5基	740,000	4.5基	711,600	0.5基	28,400	養浜工	12.2万m ³	1,224,000	5.1万m ³	499,500	7.1万m ³	724,500	合計		5,694,000		2,159,500		3,534,500
工種名	全体計画		平成26年度まで見込み		残事業																																											
	数量	事業費	数量	事業費	数量	事業費																																										
堤防改良	3,518m	3,730,000	700m	948,400	2,818m	2,781,600																																										
突堤工	5基	740,000	4.5基	711,600	0.5基	28,400																																										
養浜工	12.2万m ³	1,224,000	5.1万m ³	499,500	7.1万m ³	724,500																																										
合計		5,694,000		2,159,500		3,534,500																																										
<p>2-2 今後の見込み</p> <p>厳しい財政状況ですが地元の要望も強く、平成34年度の完成を目指し引き続き事業を推進していきます。</p>																																																

3 事業を巡る社会経済情勢の変化

平成25年は「第62回神宮式年遷宮」を契機として伊勢市二見町への観光客が大幅に増加しています。

また、東日本大震災の経験から、地域住民の防災意識が高まってきており、住民が参加する大規模な避難訓練が実施されるようになってきました。更に、宇治山田港海岸周辺の観光客数が著しく増大し、住民だけでなく観光客を対象とした避難誘導體制が求められるようになったことから、津波啓発看板及び津波誘導看板を伊勢市と連携し整備を行っています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

海岸名	解析年	便益 (B)	費用 (C)	B/C
宇治山田港海岸	H21年	1,424.4 億円	42.5 億円	33.5
	H26年	1,525.3 億円	53.2 億円	28.7

【B/C変化の要因】

B/Cは、便益 (B) が平成21年度の資産評価額よりも平成26年度の資産評価額が低下した産業が多かったために減少、費用 (C) が工事の前倒し (早期投資) により現在価値でみた費用が増大したため減少した。

4-2 その他の効果

堤防のブロックは顔料を混入した着色コンクリートとし、突堤の被覆には自然石を用いることにより、白砂青松の自然な景観と調和を図っています。

4-3 地元意向

未施工区間では、台風等の高潮時には波が堤防を越える越波被害が発生している状況であり、既存堤防施設の老朽化及び海浜部の砂浜侵食に対する早急な施設整備が求められています。

また、対策工法については、自然災害からの防護効果のみならず、漁業を中心とした生態系、夫婦岩と関連する自然景観、宿泊施設利用者の海浜利用を考慮した最適な工法の採用が求められています。

5 コスト削減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト削減

突堤天端の遊歩道工は、当初計画においては景観に配慮した石張舗装として計画していましたが、比較的安価で同等の効果を持つコンクリート洗出し舗装に見直すことでコスト削減を図っています。

5-2 代替案

海岸保全施設については、線的防護方式又は面的防護方式による整備が考えられます。二見工区では、背後の社会環境 (夫婦岩表参道、旅館街) 等や自然環境を考慮し、既設堤防の高さを変えずに防御する、面的防護方式 (堤防改良+突堤+養浜) としています。

一方、今一色工区では、堤防前面まで海苔養殖が行われ、海域を利用した防護施設の設置が困難であることから線的防護方式 (堤防嵩上げ) としています。

以上から、当海岸において代替案は考えられず、現計画で進めることが妥当であると判断しています。

再 評 価 の 経 緯

平成12年度に事業採択され、平成21年に再評価を実施し、事業継続が認められた後、5年が経過したことから第2回目の再評価になります。

(前回再評価の付帯意見)

「今後、周辺環境や多様な利用形態に配慮しつつ、計画どおりに防災効果が発現されるよう事業を進められたい。」

(対応状況)

景観や海岸利用については国や市、地元関係者等と協議しながら事業を実施し、堤防背後から海岸へのアクセスとしてスロープの設置や突堤天端に遊歩道を整備するなど海岸施設の利用促進を図り、多くの方々に利用していただいています。

また、早期の防災効果を発現するために重点的投資や工事分割発注等の工夫を行っています。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱3条の視点を踏まえて、再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、当事業を継続したいと考えています。

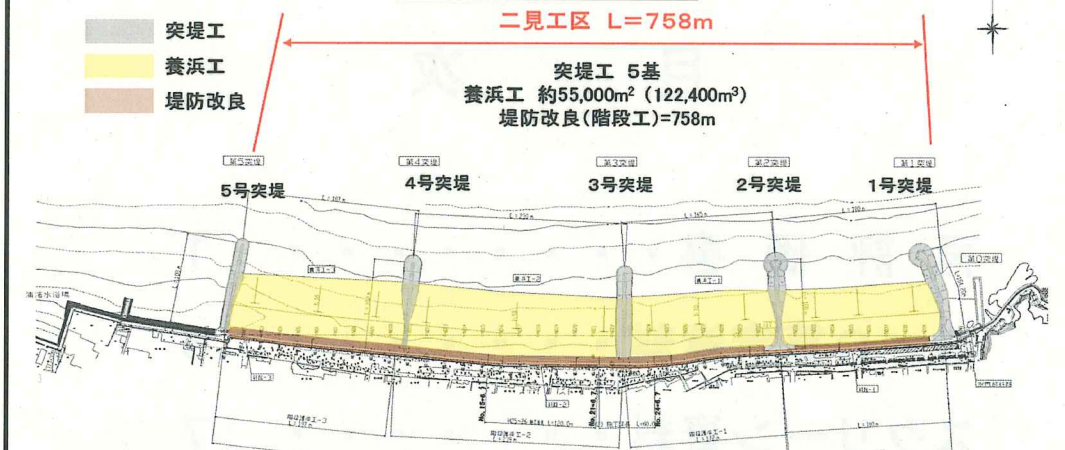
※再評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。

宇治山田港海岸の位置図

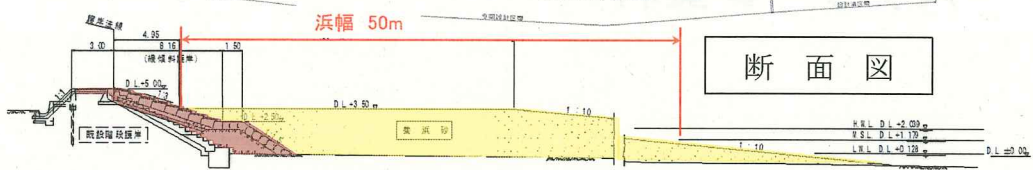


概要図

事業計画



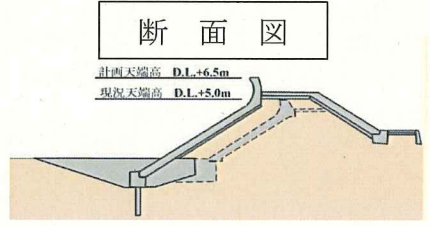
断面図



今一色工区 L=2,760m



断面図



全体計画

堤防改良 3,518m
 突堤工 5基
 養浜工 約55,000m²
 (12.2万m³)

事業期間

H12~H34完成予定

老朽化、侵食状況、越波状況



老朽化

侵食状況

越波状況